

推薦入試作文問題

問題2

皇居は東京駅のすぐ近くという、大都会の中心にあるにもかかわらず、豊かな自然を残しています。その皇居の生物が、国立科学博物館の研究者が中心となって1996年から1999年にかけて詳しく調べられました。その結果、予想されていた通り、皇居の森や池（堀）には豊かな自然が残されていることが明らかになりました。また、一方では、本来生息していると考えられていた生物が発見されないものもありました。これは何かの拍子でいったん絶えてしまうと、その生物の生息地が皇居の周辺にはすでにないため、その生物の供給が完全に絶たれてしまうからだと考えられています。すなわち、都市という人工環境の中で皇居の森や池が孤立していること示しています。

たとえば、トンボについては表にあるように皇居では27種が生息しています。東京のトンボは割合よく調べられていて、区単位の報告書が出版されていますが、それらに記録されている種数のいちばん多いのが大田区の32種、いちばん少ないのが目黒区の19種です。これらと比較すると、皇居にはわずかな広さのなかに東京のひとつの区にはほぼ等しい種数のトンボが生息していることがわかります。また、特筆すべきことは、東京ではすでに生息していないと考えられていたトンボが3種（ベニイトトンボ・コサナエ・アオヤンマ）も発見され、その数も多い点です。また、当然生息していると考えられていた、いくつかの種が発見されませんでした。

これらのこともふまえて、都市の自然のあり方というテーマであなたの考え方を述べなさい。

東京都各区および皇居から記録されたトンボとその種数。

	北区	板橋区	杉並区	大田区	目黒区	荒川区	葛飾区	皇居
イトトンボ科	5	6	3	8	3	6	5	5
ヒヌマイトトンボ				○				
キイトトンボ				○	○			
ベニイトトンボ					○			
アオエントンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
アジアイトトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
クロイトトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
ムスジイトトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
セスジイトトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
オオセスジイトトンボ								
オオイトトンボ		○				○	○	○
モノサシトンボ科	0	0	1	0	1	0	1	0
モノサシトンボ			○	○	○			
オオモノサシトンボ						○		
カワトンボ科	0	0	0	0	0	0	0	0
ハグロトンボ								
アオイトンボ科	2	0	1	2	3	3	4	2
アオイトンボ					○	○	○	○
オオアオイトンボ	○				○	○	○	○
オツネントンボ						○		
ホソミオツネントンボ	○		○			○	○	○
サナエントンボ科	1	0	1	2	0	1	1	2
コサナエ								
ウチワヤンマ	○		○		○	○	○	○
コオニヤンマ								
オニヤンマ科	0	0	1	1	0	0	1	1
オニヤンマ			○	○			○	○
ヤンマ科	1	1	4	2	2	2	3	2
アオヤンマ								
カトリヤンマ								
マルタニヤンマ								
クロスジギンヤンマ								
ギンヤンマ	○	○	○		○	○	○	○
オオギンヤンマ								
エゾトンボ科	1	1	1	1	0	0	1	1
オオヤマトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
トンボ科	11	13	10	15	10	18	13	13
シオカラトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
オオシオカラトンボ								
ハラビロトンボ								
コフキヨトンボ	○	○	○		○	○	○	○
ショウジョウトンボ								
ミヤマアカネ								
ナツアカネ								
アキアカネ								
マイコアカネ								
マユタテアカネ								
リスマカネ	○	○			○			
ヒメアカネ								
ノシメトンボ	○	○	○		○			
コノシメトンボ								
ネキトンボ								
オオキトンボ								
スナアカネ								
コシアキトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
ウスバキトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○
チヨウトンボ								
ハネビロトンボ								
合計	21	21	22	32	19	31	30	27

各区の開拓公表年は、北区、1988；板橋区、1986、1991；杉並区、1993；大田区、1984、1997；目黒区、1985；荒川区、1989、1993；葛飾区、1999。